

● 府民に寄り添った地域活動緊急支援事業に協力しよう 配布予定 28 日

京都府からコロナで収入が減った人や生活に困っている人がおられた場合、京都府として支援活動を展開するので協力して欲しいとの呼びかけが届きました。事務局会議に提起すると、難しい点も多々あるけれど、できる範囲で協力しようと決まりました。

● 河川保全利用委員会 12 月 10 日 15:00~17:00 にかれる 新田辺駅前 キララホール

木津川の河川敷の利用がグラウンドなどに使われていますが、多様な生き物など生育しているので、それとの共存を考えた取り組みをするべきであり、大いに対応を研究し、維持などが適正にされているかなど報告を受けて審査する場が設定されています。地域住民が国交省に直接意見を述べるチャンスはこの機会しかありませんので、大いに参加してご意見を述べていただきたいと思います。

● 冬の自然観察会 12 月 19 日（日）集合 10:00~ 講師 桜谷保之先生

毎年この季節に冬の生き物を観察する取り組みを行ってきました。今年は久しぶりに昆虫に詳しく長年里山の会の取り組みに力を発揮していただいている桜谷保之先生にお越しいただけることになり、充実した観察会になると思います。昆虫好きの皆さん、こぞってご参加をお願いします。一応午前の部で調査活動は終了となりますが、スタッフは午後からも調査を続ける予定になっています。

● 中聖牛設置の通路確認 12 月 4 日

2021 年度の中聖牛の設置の取組みは木津川 20 km 地点としてはじめての場所に設置することになっています。砂州に二つの用水路が存在しているので、組み上げた中聖牛の運搬や 40 トンにもなる石材を運びこむ通路の確保が最大の課題で、その見通しが立たないと組立てができないことになるのです。4 日ハンマーモアを持ち込んで通路の確保とコースを一応確認出来ました。あとは堤防の補強工事業者との打ち合わせや木津川出張所などとの意向をすり合わせのところまで到達出来ました。これで何とか見通しが立つところまでこぎつけられました。

● 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会の皆さん木津川視察に来所

いよいよ寒さ本番となった 12 月 4 日、昨年少し計画されていたリレー見学会の木津川編の実現になりました。最初は近鉄鉄橋を訪ねて河床低下の現状を、続いてレンリソウやフナバラソウ、イヌハギなどの希少植物の維持管理の実態、そして山砂利採取の城陽市の現状、天井川や内排水問題、そして玉水橋付近で中聖牛や竹蛇籠の取組みとその解説を直接竹門先生からお話しいただき、玉水駅での山城大水害の記念碑を訪ね、昼食を木津川流域センターでとり、井手町の水害記録映画を鑑賞して、アスピアで三角縁神獣鏡を見学、古代の出来事を学びあいました。



● 会誌 51 号・結成 25 周年記念号 印刷発送される

会誌 51 号の発行は原稿が思うように集められなかったので随分と遅れましたが、結成 25 周年記念

号との合併で12月6日に印刷製本を行い、発送までこぎつけることができました。まもなく各会員さん宅まで届くことになります。ご期待ください。出来ましたら記事や、ご感想及び改善点などお気づきのことについてお知らせ頂けると有り難いと思っています。

● 同志社大学サッカー部 22 名ボランティア活動で 里山農園の丸山の除草作業実施

冬の冷たい雨の中ものすごいエネルギーを発揮していただきました。急傾斜地なので草刈り機の使用は無理なので草刈り鎌などを使って人力の作業でした、特に初日の7日は朝から冷たい雨が降り続けました。前日から激しい雨天予想がされていたので、多分中止すると連絡が来るものと思っていましたら、予定通り実行するとの電話連絡でした。学生さんの意欲に大変驚きました。冬の雨にたじろぐことなく集まった9名の皆さんは頭先からつま先までずぶ濡れになっても作業を続行して、少しの休憩をとってすぐ第二ラウンドだと言って雨の中で作業を続けていただきました。それで小高い小山の裏側に続き、表側も半分をさっそうと刈り取ってしまいました。ずぶ濡れになっても躊躇することなくやり切ってしまう気力に圧倒されました。心の中から驚きました。そして終了後の感想をお聞きしたら楽しかった、よい経験になった。地域社会に良い貢献ができた、との発言にも大変驚かされ、一言もだれ一人も苦情など述べることなく感謝の言葉ばかりが続きしました。私たち里山の会のメンバーは、口をそろえてきっと苦情が出てくるだろう、悪天候悪条件だったので心配していましたが学生さんから予想外の感謝の言葉を聞かされて、恐れ入りました。本当にありがとうございますと心の底から感謝申し上げます。そして二日目の8日は13名の皆さんがご参集いただき、前日にも増して頑張ってくださいました。おかげで小山の雑草が見事に刈り取られて綺麗になりました。取材に来たNHKや朝日新聞・京都新聞の各記者に存分に参加したサッカー部の皆さんへの感謝の気持ちを伝えたいと思います。できるだけ早く学校に感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当に、本当にありがとうございました。



● ヤマトサンショウオの生息池 流入の土砂除去作業実施

近頃生息池への流入土砂が増加して大きな水たまりが小さく(幅40cm長さ1m)なっていましたので、12月4日太田、有田、野村、金田、吉村さんの5名で土砂の除去作業を実施していただき、水が流入していくようになりました。ヤマトサンショウオが産卵するのは、流れが速くなく、わずかに新鮮な水が入れ替わる条件が必要です。すなわち止水しているような湿地なのです。昨年も土砂が流入していてどうなることか心配しましたが、土砂を取り除きましたら、卵嚢が非常に多く見つけられました。昨年の経験を生かして対応し、小さい土砂止めの堰堤を三段階作り、流入土砂防止のために技術的に進歩した改良を行いました。結果が楽しみです。5名の皆さんご苦労様でした。